

研究開発成果 実装支援プログラム  
平成22年度 報告書

実装活動の名称

「WEBを活用した園児総合支援システムの実装」

採択年度 平成22年度

実装機関名 筑波大学大学院

実装責任者 安梅 勅江

## 1. 概要

WEBを活用した園児総合支援システムの一環として、ホームページ、及び、園児支援パッケージ（Webアプリケーション）の開発を行った。

### （1）ホームページの作成

園児支援パッケージを設置するためのセキュアなサーバーを確保し、ホームページを作成した。ホームページは、保育専門職のニーズにもっとも近く、保育専門職にとって使いやすいデザイン構成となるようにした。

ホームページのタイトルは「保育パワーアップ研究会」、URLは「<http://childnet.me/>」、ページの構成は下記の通りであった。

#### 1) トップページ

- 本サイトの目的と構成
- 各種ツールへの窓口（リンク）
- サブページへのリンク
- 保育士ブログへのリンク
- 連絡先

#### 2) サブページ

##### ①根拠に基づく保育実践

- プロとしての根拠に基づく実践とは 1 ページ
- 実践のポイント 1 ページ
- 根拠と評価 1 ページ
- 根拠と気づき 1 ページ
- 意義と効果 1 ページ

##### ②根拠に基づくツール

- 発達評価ツールについて 1 ページ
- 気になる子どもチェックリスト 1 ページ
- 社会的スキル尺度 1 ページ
- 育児環境評価ツールについて 1 ページ
- 保育環境評価ツール 1 ページ
- ツールの複合的活用について 1 ページ

##### ③資料

- PDF形式ツールのダウンロード 1 ページ

### （2）園児支援パッケージ（Webアプリケーション）の開発

支援ツールをコンピュータプログラム化し、操作マニュアルを作成し、ホームページ上に設置した。設置が完了した段階で、保育専門職が使いやすいものとして機能するか否か確認した。詳細は下記の通りであった。

#### 1) 下記3ツールのWebアプリケーション化

- ①一般発達評価ツール
- ②社会的スキル尺度ツール
- ③気になる子ども支援ツール

## 2) プロフィールレポートの出力

- ①園児プロフィールレポート（全国、園平均との比較機能付き）
- ②園プロフィールレポート（全国平均との比較機能付き）

## 3) アクセス権の付加

- ①実装メンバーは、各園から収集したすべての情報にアクセスが可能。
- ②保育専門職は、自園内の情報にのみアクセス可能。

## 2. 実装活動の具体的内容

### (1) ホームページの作成

保育専門職のニーズにもっとも近く、保育専門職にとって使いやすいデザイン構成のホームページを作成した。また、ホームページに関する技術的な知識がなくても、後の更新がしやすいように、サイトのファイル形式は PHP 形式をとるようにした。ホームページのタイトルは「保育パワーアップ研究会」、URL は「http://childnet.me/」、具体的には下記のような画面イメージと内容である。

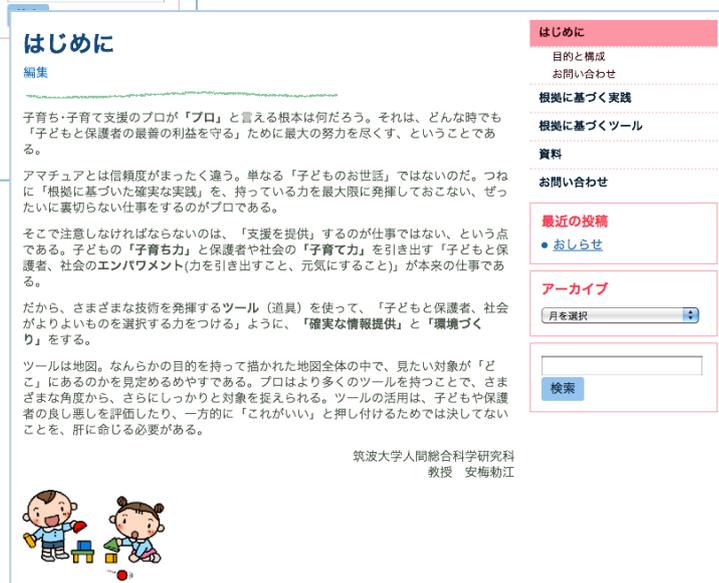
#### 1) トップページ



また、代表者の所属を明記し、あいさつ文を掲載することで、本文者に安心感を持ってもらうよう配慮した。

トップページは、「おしらせ」「あいさつ」「目的と構成」「お問い合わせ」「保育士BLOGへのリンク」で構成される。

ページの筆頭に「おしらせ」を掲載することで、訪問者は最新の情報にアクセスすることができるよう配慮した。



筑波大学人間総合科学研究科  
教授 安梅勲江

## 2) サブページ

現段階でのサブページは、「①根拠に基づく実践」「②根拠に基づくツール」「③資料」の3部構成とした。「実践におけるツールの活用方法」「実践の展開」「実践例と評価」などeラーニングに直接リンクする項目は、平成23年度に追加する予定である。

### ① 根拠に基づく保育実践

「根拠に基づく保育実践」は、「プロとしての根拠に基づく実践とは」「実践のポイント」「根拠と評価」「根拠と気づき」「意義と効果」の5ページで構成した。

まず、保育専門職に対する科学的根拠に基づく実践システムの確立が求められていることを、保育専門職に伝わりやすい平易な言葉で記述し、求められている実践とはどのようなものなのか、ポイントを絞って記述した。画面のイメージは下記の通りである。

The image displays two screenshots of a website titled '保育パワーアップ研究会' (Evidence based Child Care Empower Skills for Child Care Professionals). The top screenshot shows the '根拠に基づく実践' (Evidence-based Practice) page, which includes a navigation menu with 'Info', 'HOME', '根拠に基づく実践', '根拠に基づくツール', '資料', and 'Contact us'. The main content area is titled '根拠に基づく実践' and contains sections for 'はじめに' (Introduction), '根拠に基づく実践' (Evidence-based Practice), '根拠に基づくツール' (Evidence-based Tools), '資料' (Materials), and 'お問い合わせ' (Contact Us). The '根拠に基づく実践' section is expanded, showing a list of items: 'プロと言うためには、何が必要だろうか?' (What is needed to be a professional?), '1) プロ魂 (プロとしての哲学)' (1) Professional Soul (Philosophy of a professional), and '2) プロ技 (プロとしての知識と技術)' (2) Professional Skills (Knowledge and skills of a professional). The 'プロ魂' section discusses the importance of protecting the interests of children and supporting them. The 'プロ技' section discusses the importance of scientific and experiential evidence. The 'はじめに' section discusses the importance of evidence-based practice. The bottom screenshot shows the '根拠に基づく実践のポイント' (Points of Evidence-based Practice) page, which includes a navigation menu with 'Info', 'HOME', '根拠に基づく実践', '根拠に基づくツール', '資料', and 'Contact us'. The main content area is titled '根拠に基づく実践のポイント' and contains sections for '必要とされる3つの技術' (3 Technologies Required), '実践のために必要な視点' (Perspectives Needed for Practice), and '子育て環境に必要な8つの条件' (8 Conditions Needed for a Child-rearing Environment). The '必要とされる3つの技術' section lists: 1. 真のニーズを見極める技術 (Technology to identify true needs), 2. 真のニーズから子どもと保護者、社会に「適切な実践」を実施する技術 (Technology to implement 'appropriate practice' from true needs for children, guardians, and society), and 3. 実践を「評価」し、さらによりよい実践に生かす「フィードバック」技術 (Technology to evaluate practice and use 'feedback' for better practice). The '実践のために必要な視点' section lists: '4つの側面' (4 Aspects) from which to view things: 1. 子ども (Children), 2. 保護者や専門職 (Guardians and Professionals), 3. かかわり (Involvement), and 4. 環境 (Environment). The '子育て環境に必要な8つの条件' section lists: 1. 日常生活の中に多様性に富んだ人とかかわりの機会があること (Having diverse people and opportunities for interaction in daily life), 2. かかわりが情緒的で言語的な反応性に富んでいること (Having emotionally rich and linguistically responsive interaction), 3. 制限や罰が回避されていること (Avoidance of restrictions and punishment), 4. 年齢相応の自主性が尊重されること (Respect for age-appropriate autonomy), 5. 子どもの発達状態に見合った物的な刺激 (おもちゃなど) が存在すること (Existence of physical stimulation appropriate to the child's development status (toys, etc.)), 6. 子どもの外出機会がありさまざまな外部社会に触れること (Having opportunities for children to go out and interact with various external society), 7. 子どもの発達を配慮した安全な物理的な環境が整備されていること (Having a safe physical environment that considers children's development), and 8. 日常生活の中で育児に対する社会的なサポートがあること (Having social support for childcare in daily life). The bottom screenshot also shows a '最近の投稿' (Recent Posts) section with a link to 'おしらせ' (Notice) and an 'アーカイブ' (Archive) section with a dropdown menu for '月を選択' (Select Month) and a search bar.

### 根拠と評価

子育て・子育てエンバロメント（育つ力と育てる力をはくむ保育）プロの技法は、「評価」が基礎になる。

**支援における評価**

子どもの育ちや保護者の育児はさまざま。「育つ力と育てる力をはくむ支援」について、何を基準にして評価するのか難しい。

ここでは、あくまでも「子どものすこやかな発達と健康」を中心に考える。子どもの発達と健康にとって好ましい影響を与える環境が用意されているかどうか。それを評価の基準とする。

もちろん、一面的な評価は危険である。ここでいう「すこやかな発達」とは何か。ほかの子と同一ペースで何かができるようになること？ 気になる行動がないこと？ その気になる行動は、だれにとって何が気になって、本当に「気になる」と言えること？

一方で、科学的に測ることが難しい他の子どもへの思いやり、のびのびとした意欲、ことへの適応性、精神的な安定性、幸福感、新しいものへの興味、創造性など「すこやかな発達」のきわめて重要な要素。つまり、「すこやかな発達」の評価はつねにさまざまな限界のあることを理解しながら活用する必要がある。

その限界を意識しながら、「総合的な評価」そして「継続的な評価」を心がける。わち、本質を見失うことのないよう、子ども、保護者、それをとりまく家族、近隣のさまざまな側面から確認する。ひとつの側面にとらわれず、全体の流れから意味しているのかをくみ取ること。また一回ではなく、子どもの発達にそって、定期的チェックすることが求められる。

あくまでも「評価」という道具は、「ひとつの道具」にしか過ぎないことを肝に留めること。だからこそ、さまざまな道具（ツール）を「プロの技術」として持っておく必要がある。





Info
HOME
根拠に基づく実践
根拠に基づくツール
資料
Contact us

## 根拠と気づき

**根拠と気づき**

家庭での養育力の低下や育児の孤立化、保育ニーズの多様化が進行する中、今や保育園や幼稚園には、子育て支援のプロが常駐する拠点として、さまざまな問題の「発生予防」から「早期発見」、「早期対応」まで、極めて重要な役割が期待されている。

従来からの機能に加えて、地域子育て支援、虐待予防、小学校との連携による卒園後のフォローアップ、保護者への相談、子育て支援ネットワークへの参加など、多様な子育てニーズに対応できる高い専門性が求められている。地域の施設機関や専門職、住民などと連携をとりながら、チームとして活動する機会も少なくない。

保育園や幼稚園は、日々のかかわりの中で対応できる強みを生かすとともに、支援について「根拠のある説明ができる」という説明責任を果たすための専門技術の向上が必須となっている。

実践の場では、「配慮の必要な子どもへの保育」について、職員会議やケース検討会を実施している。しかし、本当にこれでよかったのか、この方法がもっとも適切だったのか、主観的な見方ではなかったのかなど、いろいろな問題点や疑問点が出てくる。それを解決する方法として、根拠に基づく実践が有効なのである。ここで紹介するさまざまなツールは、根拠への「気づき」を促す道具である。この「根拠に基づく実践」と「気づき」につながる観察眼を磨くことが専門性を高める手段となる。

はじめに

**根拠に基づく実践**

- 根拠に基づく実践のポイント
- 根拠と評価
- 根拠と気づき
- 実践の意義と効果

根拠に基づくツール

資料

お問い合わせ

**最近の投稿**

- お知らせ

はじめに

**根拠に基づく実践**

- 根拠に基づく実践のポイント
- 根拠と評価
- 根拠と気づき
- 実践の意義と効果

根拠に基づくツール

資料

お問い合わせ

**最近の投稿**

- お知らせ

**アーカイブ**

月を選択

検索





Info
HOME
根拠に基づく実践
根拠に基づくツール
資料
Contact us

## 実践の意義と効果

**実践での根拠の活用の意義**

- 情報の共有化  
保護者をはじめ、専門職同士がともに話し合う時に、情報を確実に共有することができる。
- 視点の統一  
個人的な思いこみをできるだけなくして、一定の視点から皆で把握できるようになる。
- 客観的な内容の統一  
集めた情報を、保護者をはじめ専門職だれもが正確に利用し、チームワークを組んで、情報を適切に伝えることができる。
- 評価される人自身の「啓発」  
根拠を示すことで、子どもや保護者、地域の人など、評価される人自身が自らの生活の側面に気づき、また改善していくきっかけとすることができる。

**根拠を実践に使うことにより得られる効果**

- より良い実践への改善ができる
- 子どもと保護者の将来予測に基づいた実践ができる
- 実践の長期計画が策定できる
- 保護者と実践の意義を共有することができる
- 他の専門職と連携がスムーズにできる
- 質の高い実践について地域や社会に提案できる

**文献**

- 安梅勲江. 子育て環境と子育て支援. 勤草書房. 2004
- Caldwell,B.M. & Bradley,R.H. Home observation for measurement of the environment, center for child development and education, University of Alkanas at Little Rock, 1974

はじめに

**根拠に基づく実践**

- 根拠に基づく実践のポイント
- 根拠と評価
- 根拠と気づき
- 実践の意義と効果

根拠に基づくツール

資料

お問い合わせ

**最近の投稿**

- お知らせ

**アーカイブ**

月を選択

検索

はじめに

**根拠に基づく実践**

- 根拠に基づく実践のポイント
- 根拠と評価
- 根拠と気づき
- 実践の意義と効果

根拠に基づくツール

資料

お問い合わせ

**最近の投稿**

- お知らせ

**アーカイブ**

月を選択

検索

② 根拠に基づくツール

「根拠に基づくツール」は、「根拠に基づくツールとは」「発達評価ツールについて」「一般発達評価ツール」「社会的スキル尺度」「気になる行動チェックリスト」「育児環境評価ツール」「保育環境評価ツール」の7ページで構成した。

12年にわたるコホート研究により、子どもの健やかな成長に影響する要因と支援のあり方を科学的に分析し開発した5つの支援ツール(①発達評価ツール、②社会的スキル尺度、③気になる子ども支援ツール、④育児環境評価ツール、⑤保育環境評価ツール)を紹介するとともに、「ツールを活用して評価することの目的と意義」「使い方」を記載した。また、各ツールをPDF形式でダウンロードできるようにし、ツールの構成や内容を把握できるような配慮をした。

画面のイメージは下記のとおりである。



③ 資料

「資料」には、「一般発達評価ツール」「社会的スキル尺度」「気になる行動チェックリスト」「育児環境評価ツール」「保育環境評価ツール」の5つのツールに集約して掲載し、ダウンロードしやすいような配慮をした。

また、各種ツールの具体的な活用方法や事例などの詳細を掲載した書籍「保育パワーアップ講座～基本編～」と「保育パワーアップ講座～活用編～」の掲載も行った。



最後に、訪問者が保育パワーアップ研究会と連絡が取りやすいように、「連絡先」を再掲載した。



## (2) 園児支援パッケージ (Web アプリケーション) の開発

### 1) 下記 3 ツールの Web アプリケーション化とプロフィールレポートの出力

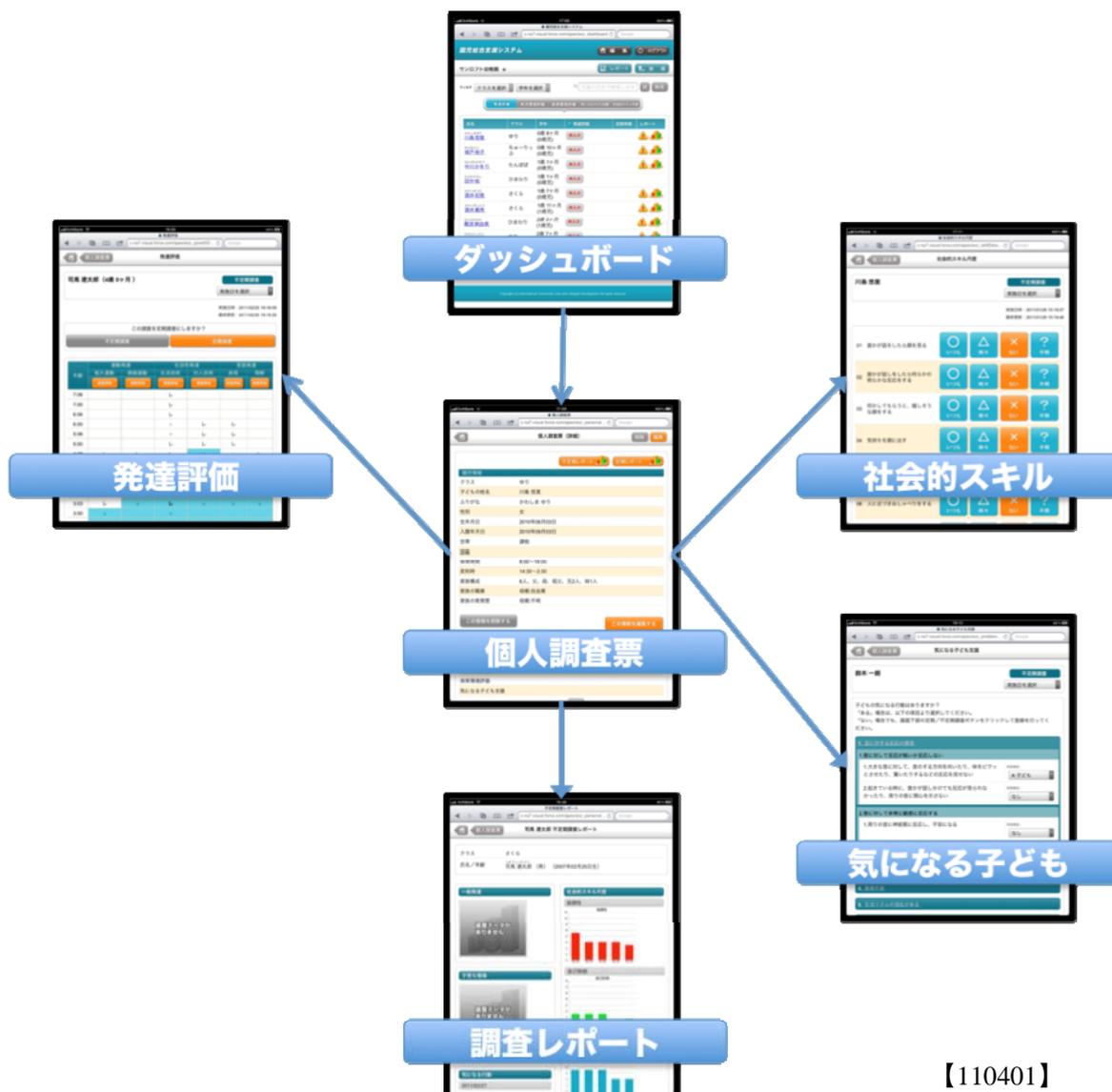
5つの支援ツール (①発達評価ツール、②社会的スキル尺度、③気になる子ども支援ツール、④育児環境評価ツール、⑤保育環境評価ツール) のうち、下記 3 つのツールを WEB アプリケーション化し、ツールを「より活用しやすい形」「柔軟性および汎用性の高い形」で提供した。

- ① 発達評価ツール
- ② 社会的スキル尺度
- ③ 気になる子ども支援ツール

そして、成果を視覚的にとらえやすいように、下記 2 つのレポートを出力できるようにした。

- ①園児プロフィールレポート (全国、園平均との比較機能付き)
- ②園プロフィールレポート (全国平均との比較機能付き)

### 2) Web アプリケーションの概要



① ダッシュボード



- 各ツールの調査の状況を一覧で確認
- クラス、学年で絞り込み、名前で検索
- 月齢で並び替え

② 個人調査票



- 子どもの個人情報を登録
- 各ツールの調査状況を確認
- 各ツールの調査開始



個人調査票の入力画面

- プルダウンリストより入力補完
- チェックボックスより選択

③ 一般発達評価ツール

| 年齢   | 運動発達 |      | 社会性発達 |      | 言語発達 |    |
|------|------|------|-------|------|------|----|
|      | 粗大運動 | 微細運動 | 生活技術  | 対人技術 | 表現   | 理解 |
| 7:06 | 調査開始 | 調査開始 |       |      |      |    |
| 7:00 |      |      | レ     |      |      |    |
| 6:06 |      |      | レ     |      |      |    |
| 6:00 |      |      | ○     | レ    | レ    |    |
| 5:06 |      |      | ○     | レ    | レ    |    |
| 5:00 |      |      | レ     | レ    | レ    |    |
| 4:08 | レ    | レ    | レ     | ○    | ○    | レ  |
| 4:04 | レ    | レ    | ○     | ○    | レ    | レ  |
| 4:00 | レ    | レ    | ○     | ○    | レ    | レ  |

- 6領域のどこからでも調査を始められる
- すべてが選択されていない場合は「途中」状態となる
- 12月の「定期調査」と、それ以外の「随時調査」を分けて登録ができる
- 領域ごとに再調査できる
- 色分けにより一目で状況を把握できる

司馬 遼太郎 (4歳 0ヶ月)

運動発達

粗大運動

4歳 0ヶ月 片足で数歩跳ぶ

○ できる    ㄱ できない

4歳 4ヶ月 プランコに立ち乗りしてこぐ

○ できる    ㄱ できない

4歳 8ヶ月 スキップができる

○ できる    ㄱ できない

次の問題へ進む

- 大きめのボタンをタップしながら回答する
- 月齢を上に向かって進み、できないことが3つ続くまで設問が表示される

司馬 遼太郎 (4歳 0ヶ月)

運動発達

粗大運動

3歳 9ヶ月 幅跳び (両足をそろえて前に跳ぶ)

○ できる    ㄱ できない

3歳 6ヶ月 三輪車をこげる

○ できる    ㄱ できない

3歳 3ヶ月 でんぐり返しをする

○ できる    ㄱ できない

次の問題へ進む

- 月齢を下に向かって進み、できることが3つ続くまで設問が表示される

#### ④ 社会的スキル尺度

- 30項目をタップボタンにより選択

- すべてが選択されていない場合は「途中」状態となる
- 12月の「定期調査」と、それ以外の「不定期調査」を分けて登録ができる
- 過去の登録を編集して上書き保存ができる
- 過去の登録を編集して、別の調査として登録ができる

#### ⑤ 気になる子ども評価ツール

- 33項目から詳細へアクセスしやすいようにまとめている
- 項目、内容、基準、背景要因が簡単に触れる画面
- 過去の調査もスクロールさせながら全体を把握できる

⑥ レポート



- 各調査から集計されたレポートの表示
- 定期調査は年齢ごとに、随時調査は過去5回の表示をする。

3. 理解普及のための活動とその成果

(1) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

| 年月日        | 名称             | 場所                      | 概要   | ステークホルダー   |
|------------|----------------|-------------------------|--|--|
| 2011/01/29 | 第1回保育パワーアップ研修会 | RISTEX麹町オフィス5F<br>第1会議室 | 参加人数：26名<br>目的：<br>(1) WEBを活用した園児総合支援システムのコンセプトの共有<br>(2) 開発中のWEBアプリケーションに関する意見交換<br>内容：<br>(1) WEBを活用した園児総合支援システムの概要についての説明<br>(2) iPad活用の演習<br>(3) WEBアプリケーションによるデータ管理の説明と演習 | 筑波大学大学院<br>全国夜間保育園連盟<br>どろんこ保育園<br>大宝保育園<br>小倉北ふれあい保育所<br>共栄保育園<br>保育所聖愛園<br>保育所豊新聖愛園<br>保育所北丘聖愛園<br>(株) サンロフト |

|            |                |                             |  |   |
|------------|----------------|-----------------------------|--|---|
| 2011/02/27 | 第2回保育パワーアップ研修会 | RISTEX麹町オフィス<br>5F<br>第1会議室 | 参加人数：18名<br>目的：<br>開発中のWEBアプリケーションの紹介と意見交換<br>内容：<br>(1) 保育所訪問報告<br>-- 園児情報管理の現状と今後の可能性<br>(2) 工場へのCIM導入<br>-- 本プロジェクトとの共通点<br>(3) WEBアプリケーションを用いた情報管理の演習と意見交換<br>--基本情報、一般発達検査、社会的スキル、気になる子どもチェック | 筑波大学大学院<br>全国夜間保育園連盟<br>どろんこ保育園<br>共栄保育園<br>保育所聖愛園<br>(株) サンロフト |
|------------|----------------|-----------------------------|--|---|

上記2回の保育パワーアップ研修会を行うことにより、インターネットを活用した園児総合支援システムの展開により、多くの保育実践の場において、下記のことが可能となる可能性があることを確認した。

- ① 園児に関する基本情報、発達状況、日常生活状況などが電子データ化され、管理が容易になるとともに、保育専門職および他職種間のすばやい情報共有が可能となる。
- ② 個人、クラス全体、園全体の特徴と全国平均との比較が図として瞬時に表示されることにより、発達状態の特徴を視覚的に確認し、個々の子どもに適合した保育が可能となる。また保護者に対して子どもの特徴をわかりやすく示し、保育の共有および子育て支援に資することが可能となる。
- ③ 経年データを用いた発達の状況把握が可能となり、一人ひとりの園児の根拠に基づく保育方針決定への一助となる。
- ④ 備考や特記事項の入力により子どもの特徴や保育状況などの質的データを集積し、質の高い保育方法が分析可能となり、保育支援のフィードバックの一助となる。
- ⑤ 特段の配慮を要する子どもが明示され、保育専門職同士が課題を共有したり、該当園児に対する保育のあり方を見直すなど、早期支援とよりよい保育への一助となる。

## (2) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

### ①新聞報道

パステルIT新聞、第023号 2011年03月号 2011年02月20日

### ④雑誌掲載

サイエンスポータル編集ニュース、2010年9月29日

### (3) WEBサイトによる情報公開

- ・ 保育パワーアップ研究会  
<http://childnet.me/>
- ・ International Community Care and Lifespan Development  
<http://square.umin.ac.jp/anme/>

### (4) その他特記事項

平成22年度（平成22年10月～平成23年3月まで）の取り組みは、平成23年5月予定の「日本保育学会大64回大会」にて発表する予定である（演題登録・採択済み）。